

□ 主な内容

【路線バスを活用した貨客混載・共同輸送が初認定されました！】

国土交通省では、宮崎交通、日本郵便、ヤマト運輸の 3 者によるバスの貨客混載・共同輸送事業を今回新たに認定しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000373.html

【第 17 回 地域バス交通活性化セミナーの参加者募集中！】

3 月 6 日 (火) に札幌市で第 17 回 地域バス交通活性化セミナー「路線バス運転手確保とバス交通の活性化」を開催します。皆様からのご参加をお待ちしております。

http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/17th_seminar.html

目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 139 回)

●「低炭素社会の車両多様化と超小型モビリティ」

【関西大学環境都市工学部 秋山孝正】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 139 回)

●「地域・市民が主体となった路線バスの利用促進に向けた取組

『名栗でわくわく！親子で川遊び体験』(飯能市)」

【埼玉県 飯能市 市民生活部生活安全課交通政策室】

3. ニュース／トピック

●路線バスを活用した貨客混載・共同輸送の初認定について【国土交通省】

●貨客混載バスを活用した買物支援サービスの実証実験について【北海道運輸局】

●平成 29 年度「エコモビ実践キャンペーン」の実施結果について【愛知県】

●モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2017 結果発表について【一般社団法人カーフリーデージャパン】

●2017 年の電動車販売 152 万台達成について【トヨタ自動車株式会社】

●複数の路線バス会社と連携した貨客混載事業の実証実験について【佐川急便株式会社】

●北西部とアラスカのクリーンディーゼルプロジェクトに 130 万ドルを助成【アメリカ環境保護庁】

4. イベント情報

●交通・運輸における女性活躍サミット【2018/3/1】

- 公共交通オープンデータ最前線 in インターナショナルオープンデータデイ 2018【2018/3/3】
- 第 17 回地域バス交通活性化セミナー【2018/3/6】
- 平成 29 年度まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業 ワークショップ【2018/3/8】
- 2017 年度第 11 回自転車活用研究会 in 関西【2018/3/9】
- これからのモビリティ社会の実現に向けた国際セミナー～生活者の快適な移動の実現を目指して～【2018/3/13】
- アースデイ東京 2018【2018/4/21,22】
- 第 25 回 ITS 世界会議コペンハーゲン 2018【2018/9/17-21】

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 139 回)

●「低炭素社会の車両多様化と超小型モビリティ」

【関西大学環境都市工学部 秋山孝正】

低炭素社会を目指して、PHV、EV、FCV などの利用促進が期待されています。また原付バイクより大きく、軽自動車より小型の超小型モビリティ(ULV)も期待されています。さらに、BRTに利用される車両として、連節バスも道路を走行します。つまり、低炭素社会では、道路交通として、さまざまな形式の車両が走行することに対応する必要があります。

研究室では、なかでも超小型モビリティに着目して、利用可能性を検討しています。特に走行性能について、実際に車両(トヨタ製:coms)を購入して、一般車両とどのような相違があるのかを確かめています。たとえば、加速性能はよいというコメントを見かけることがありますが、やはり実物を動かしてみるとよくわかります。超小型モビリティをバイクと軽自動車の中間の車両とする理解は、おおむね妥当ではないかと思います。

走行性能の検討に加えて、運転をするひとびとの超小型モビリティに対する意見を聞いてみました。吹田市(大阪府)、岐阜市・山口市・本巢市(岐阜県)の調査結果があります。吹田市では自動車のシェアは 2 割程度ですが、岐阜県の 3 市は約 7 割以上の自動車社会です。地球環境のため低炭素車両の普及の必要性に関しては、地域によらず 7 割以上の方が賛成しています。一方で、残念ながら超小型モビリティについては、いずれも 5 割程度の方は「利用したくない」と回答しています。いろいろな理由があると考えられますが、特に自動車利用の多い地域では、「乗車定員が1名」で、「一回の充電で 50km 程度の走行」(30km/h 定地走行テスト値:68km)が問題となっているようです。

一方で、超小型モビリティの利用環境として「超小型モビリティの補助金の拡充」(本巢市:54%、山口市:48%)、「超小型モビリティの充電スタンドの多数設置」(吹田市:42%、岐阜市:43%)などの政策が期待されていることがわかります。

このような超小型モビリティの問題を解決すれば、コミュニティバスには一部の利用者しかなく、高齢運転者が多数のような地方都市において、カーシェアリングを推進する安心安全な低炭素交通システムを構築できるのではないかと考えています。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 139 回)

●「地域・市民が主体となった路線バスの利用促進に向けた取組

『名栗でわくわく！親子で川遊び体験』(飯能市)」

【埼玉県 飯能市 市民生活部生活安全課交通政策室】

昨年 7 月 2 日(日)、埼玉県飯能市の「わくわく名栗クラブ」が主催する川遊び体験イベントが、名栗地区の河川敷で開催されました。「わくわく名栗クラブ」は、市内を運行する路線バス事業者である国際興業バスが、平成 23 年 6 月に飯能営業所の全面撤退を公表した撤退問題を契機に発足した団体であり、名栗地区で活動する団体や事業者、個人、行政が一体となって名栗地区を一層活性化させる方策について検討を行い、組織の連携をもってさまざまな取組を実施しています。この団体の大きな目的は、路線バスの利用促進となっており、路線バスを使った名栗地区への誘客を推進しています。



実施された「名栗でわくわく！親子で川遊び体験」イベントは、この団体のメインイベントとなっており、あまり川遊びをしたことがないという東京都豊島区の区立の小学校のほか、近隣の狭山市や入間市、

そして市内の小学生を対象としてチラシを配布して参加者の募集を行いました。今回で 6 回目の実施となりますが、毎年、受付から数日でキャンセル待ちが出るほどの人気イベントとなっており、今回も 177 名の方がイベントに参加されました。

当日、参加者の皆さんは、飯能駅からさわらびの湯バス停まで路線バスに乗車して河川敷に集合し、川の中でのマスのつかみ取り、タイヤチューブで川下り、竹の水鉄砲作りなど、都会では味わえない体験を楽しんでいました。

また、遊んだ後には、のらぼう菜が入ったごはんとかレー、つかみ取りしたマスの塩焼き、地元の茹でジャガイモなどが振舞われ、美味しい食事と地元のスタッフのあたたかさに皆さん大満足の様子でした。

アンケートでは「東京から気軽に来られることがわかった」「参加して良かった」「名栗にまた来たい」など、リピーターが期待できる良い意見をいただいております。

本市では、このような地域の皆さんの取組も大きな力となり、路線バスの運行が守られています。

3. ニュース／トピック

●路線バスを活用した貨客混載・共同輸送の初認定について【国土交通省】

国土交通省では、宮崎交通、日本郵便、ヤマト運輸の3者によるバスの貨客混載・共同輸送事業を今回新たに認定しました。バスを活用した貨客混載はこれまでも事例がありましたが、複数事業者の貨物を同一便で共同輸送するのは全国で初めての取り組みとなります。この取り組みにより、年間12.7tのCO2排出削減が見込まれます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000373.html

●貨客混載バスを活用した買物支援サービスの実証実験について【北海道運輸局】

北海道運輸局は、地域公共交通の維持確保と買物時の移動環境改善を目的として、士別市朝日地区で運用されている貨客混載バスを活用した買い物支援サービス事業を実験的に実施します。

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/press/presspdf/201802/20180214.pdf>

●平成29年度「エコモビ実践キャンペーン」の実施結果について【愛知県】

愛知県では、クルマ(自家用車)と公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分ける「エコモビリティライフ」(エコモビ)の推進に取り組んでおり、今年度は3,300を超える多様な事業所が「エコモビ」に取り組みました。

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kotsu/300214ecomobi.html>

●モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2017結果発表について【一般社団法人カーフリーデージャパン】

カーフリーデージャパンは、モビリティウィーク&カーフリーデー2017において、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させるため、まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を決定・発表しました。

<http://blog.goo.ne.jp/cfdjapan/e/7704185f37f8a3cc139c85573439c4c3>

●2017年の電動車販売152万台達成について【トヨタ自動車株式会社】

トヨタ自動車(株)は、2017年の電動車販売台数が過去最高となる152万台(前年比108%)を達成したことを発表しました。1997年の「プリウス」発売からの電動車の累計販売台数は1,147万台となり、これまでのCO2排出抑制効果は9,000万トン以上になると試算しています。

<https://newsroom.toyota.co.jp/jp/corporate/20965234.html>

●複数の路線バス会社と連携した貨客混載事業の実証実験について【佐川急便株式会社】

SG ホールディングスグループの佐川急便株式会社は、秋田中央交通株式会社、羽後交通株式会社の路線バス会社 2 社と連携して、貨客混載事業の実証実験を実施します。

http://www2.sagawa-exp.co.jp/newsrelease/detail/2018/0209_1307.html?_ga=2.136109873.1618243717.1518496818-580860562.1518496818

●北西部とアラスカのクリーンディーゼルプロジェクトに 130 万ドルを助成【アメリカ環境保護庁】

アメリカ環境保護庁(EPA)は、ディーゼル排出削減プログラム(DERA)のもと、北西部及アラスカに対するクリーンディーゼルプロジェクトに計 130 万ドルの助成を行っていることを報告しました。スクールバスの代替などが対象で、二酸化炭素(CO2)952.1 トンの排出削減になるとしています。

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-provides-13-million-states-diesel-reduction-efforts>

4. イベント情報

●交通・運輸における女性活躍サミット

日時:2018年3月1日(木)13:30~17:00

場所:栄ガスビル5階 ガスホール

主催:中部運輸局

<http://www.ttb.mlit.go.jp/chubu/press/pdf/jikou2018012903.pdf>

●公共交通オープンデータ最前線 in インターナショナルオープンデータデイ 2018

日時:2018年3月3日(土)13:30~17:30

場所:東京大学 生産技術研究所 An棟2階 コンベンションホール

主催:標準的なバス情報フォーマット広め隊、東京大学 瀬崎研究室

<https://peatix.com/event/347711/>

●第17回地域バス交通活性化セミナー

日時:2018年3月6日(火)13:15~16:30

場所:札幌国際ビル8階 国際ホール

主催:国土交通省北海道運輸局、北海道、エコモ財団

http://www.ecomo.or.jp/environment/bus/17th_seminar.html

●平成29年度まち・住まい・交通の創蓄省エネルギー化モデル構築支援事業ワークショップ

日時:2018年3月8日(木)13:00~16:30

場所:フクラシア東京ステーション 6階会議室D

主催:株式会社日本総合研究所

<http://www.jri.co.jp/page.jsp?id=32247>

●2017年度第11回自転車活用研究会 in 関西

日時:2018年3月9日(金)18:30~20:30

場所:中央復建コンサルタンツ株式会社 本社/2階会議室

主催:自転車活用推進研究会

<https://www.cyclists.jp/seminar/20180309.html>

●これからのモビリティ社会の実現に向けた国際セミナー

～生活者の快適な移動の実現を目指して～

日時:2018年3月13日(火)14:00～18:00

場所:六本木アカデミーヒルズ タワーホール

主催:一般財団法人運輸総合研究所

http://www.jterc.or.jp/topics/H29_topics.html#20180313

●アースデイ東京 2018

日時:(1日目)2018年4月21日(土)10:00～20:00

(2日目)2018年4月22日(日)10:00～18:00

場所:代々木公園(イベント広場・ケヤキ並木)

主催:アースデイ東京 2018 実行委員会

<http://www.earthday-tokyo.org/2018/02/02/5174>

●第25回 ITS 世界会議コペンハーゲン 2018

日時:2018年9月17日(月)～21日(金)

場所:Bella Center

主催:コペンハーゲン市

http://www.its-jp.org/katsudou2014/tabid_100/copenhagen-2018/

5. その他

- EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！
2013年7月16日から募集を開始し、37団体が参加しています。
会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。
http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
<https://twitter.com/officeEST>
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
<http://www.green-m.jp/>
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
配信申込はこちらから
<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html
- 記事募集中！
本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。
EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当: 熊井)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局
(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>